

電気柵

J Aはだのは、農家のよい良い営農環境づくりをサポーターとして、電気柵資材を購入した組合員に対し、今年度も助成制度を設けています。助成金は上限3万円、購入費用の半額をJ Aが負担する仕組み。申請期限は2018年2月まで。



電気柵の電圧を確認する石井さん

鳥獣被害対策へ 資材購入に助成

同制度は、J Aが進めている営農経済改革の「鳥獣被害対策」への取り組み強化や、生産コスト削減対策の一環、助成回数にはJ Aの1事業年度当たり、1世帯で1回が上限となっている。昨年から始まった同制度をこれまでに農家125人が活用し、助成金額は合計で280万円以上。千村で露地野菜を栽培する石井貞良さんは昨年、同制度を活用して2

環境押し 営農後 づくり 良い

00円用などを購入。「金額が高いので、助成してくれるのはとても助かる。今年度はもう1セット購入したい」と笑顔で話した。同店では、Aセット(100円用)を3万4200円で販売、Bセット(200円用)やCセット(400円用)なども取りそろえている。問い合わせはJ Aグリーンはだのまで。☎81-7719

J Aカードで5%引き

じばさんずの買い物 来月からさらにお得

じばさんずは4月1日産農産物をこれまで以上に、J Aカードで買いに気軽に購入してもらう物とした場合、決済時にここで、農家の所得向上合計金額から5%を割り引くことになる。同サービスは、J Aが新鮮で安全・安心な市場、リンクが取り組む中期戦略

「じんじん〜其の二〜」完成 先行上映会に約3900人



上映会であいさつする俳優の大上康雄さんら

秦野市を舞台に製作された映画「じんじん〜其の二〜」が完成し、2月24日、25日には、文化会館で特別先行上映会が開かれ、約3900人が来場した。一般公開は春以降になる見通し。映画は、仕事や親子関係に悩む若者が、大道具の銀三郎らと出会い、

の具体策の一つ。割引額は農林中央金庫が負担する仕組み。総合事業を進めるJ Aグループでは、全ての取り組みで、全ての事業が相互に連携して農業活性化を加速させていく。割引対象となるのは、NICOSブランドのJ Aカード。J Aカードの



J Aカードで合計金額から5%割引

接近! おいしめし

「周りの支えがあったから今の自分がある」と話す文京町の川口昭平さん。葉タバコや落花生などを栽培する農家の長男として生まれ育ち、中学・高校生の時は学校から帰ると農作業の汗を流す毎日を経験した。高校卒業後は県内の郵便局に



文京町の川口昭平さん(73)

周りの支えで今の自分がある

就職。妻が体調を崩したい」と語る川口さん。毎日欠かさず10時、家族や親戚に子どもを預けながら仕事を続けるなど、苦勞も多かったが、局員の労務管理や窓口業務などに43年間働いた。健康を慮った生活を。57歳の時に妻を亡くし、「妻の分まで長生きを、卒業後はソフトボ

J A はだの

発行所 秦野市 農業協同組合 (神奈川県) 〒257-0015 秦野市平沢477 電話 0463(81)7711(代) 編集兼発行者 宮永均

今月の特集

4〜5面 地域に根差した店舗目指して じばさんずは、農家と連携したイベントの開催やオリジナル商品の販売の他、子どもたちの食農教育にも協力。地域に根差した店舗づくりを進めている。

メール情報配信サービス QRコードで登録を J Aはだのは、携帯電話・パソコンなどのメール月2回のメールマガジンを活用した情報配信サービスと、営農・じばさんず



セレニーホールなどのさまざまな情報を発信しています。上記のQRコードをスマートフォンで読み取ると、登録が完了します。お問い合わせは組織教育課まで。☎81-7719



山口さんの作業場をピンクに染める桃の花

子どもの成長祈る桃の花

3日の桃の節句に向け、じばさんずで9月下旬から桃の花の出荷がピークを迎えた。色鮮やかな桃の花がすくなく並び、多くの来店者でにぎわいを見せている。



状態を消費者に提供するように心掛けています。山口さんは「桃の花はわが子のように大事に育ててきたので、出荷できてうれし。今後子どもへの健康やかな成長を祈り、頑張って栽培を続けていこう」と笑顔で話した。

農家の所得向上を 自己改革着実に実践

役員が決意集会



改革への意気込みを力強く語る山口組合長

J Aはだのは4日、本所で「役員農協改革実践決意集会」を開いた。自己改革への役員らの意気込みを力強く語る山口組合長が出席した。宮永均専務らが、今年度の事業方針を説明。営農課のT A Cを主軸とし、正に営農指導や、農協法改正に対応する役員体制の整備などについて役員が認識を深めた。

4月22、23日は春まつり 農家による園芸相談も



にぎわいを見せる会場(昨年)

「園芸協会春まつり」は4月22、23の両日、じばさんず敷地内で開かれ、果樹類の苗木や花苗などを販売する他、鉢物やアサガオの種子を無料配布するなど、農機具や園芸資材などを販売する予定。お問い合わせは、各支部会カネーション部に、ぜひご来場を。

春の座談会を4月7日(金)19日(水)に、市内83会場で開催します。内容は、第54回通常総会の開催および提出議案について、自己改革への

春の座談会に 多くの出席を

の取り組み、地域の美観に沿った情報などです。組合員の意見・要望をJ A運営に反映するため、一人でも多くの出席をお願いします。

4月7日(金) 19日(水)

文中の表彰などの人名紹介の際の敬称は省略させていただきます。

農業の「担い手」激励

市民農業塾がスタート



受講生を激励する古谷市長

農業の担い手育成事業「はだの市民農業塾」の2017年度カリキュラムがスタートした。はだの都市農業支援センターが農業参画を目指す市民を対象に毎年開いているもので、今年度は35人が受講する。4日に本所で開いた開講式には、塾長を務める古谷義幸市長や副塾長の市農業委員会の島海入元会長らが出席し、受講生にエールを送った。

新規「基礎」「加工」に35人



管理機で圃場を耕す受講生

習得する「農産加工セミナーコース」の3コースで構成する。15日には、堀山下にある同塾の研修圃場(ほじょう)で、新規就農コースの受講生4人が実習に励んだ。菩提で果樹や露地野菜を栽培する伊藤隆弘さんを講師に、作付け計画の策定方法や土づくりの重

要性などの基礎知識を教わった。その後、圃場の面積に合った施肥量や管理機の使い方などを実践しながら学んだ。

農作業は安全に農機整備講習会
JAはだの農機センターは、各地の生産組合を対象に農機整備講習会を開き、農機事故防止を呼び掛けている。春の農繁期を前に、組合員と共に農機整備を点検。整備方法なども周知し、故障の劣化を防ぎ長持ちさせるための保管方法などのアドバイスをした。

「繁忙期前の講習会はありがたい。情報交換の場にもなり、仲間での安全に作業に励みたい」と話した。



井上君子さん(二郷郡) サツマイモと落花生を育てるために畑の準備をしています。

研修圃場で農作業を実践

同塾は、①新たに就農コース②農業の基礎的な知識③加工品の製造を目指す「新規就農コース」を学ぶ「基礎セミナー」造・販売に必要な知識を

落花生の栽培後押し

病害対策や土づくり講習

JAはだのは8日、本ターの職員とJA営農課所で落花生栽培講習会と土壌診断説明会を開いた。特産である「相州落花生」の一層の品質向上を図り、栽培振興を進めるために、生産農家46人が参加した。講師は県農業技術センターの松下一興園芸技術顧問が務めた。参加者は褐斑病や黒炭病など、落花生に発生する病害の概要やその対策などを学習。土壌分析を活用し、施肥コストの抑制と落花生に適した肥料

★ 営農技術 ★

ヒント・ポイント

農業技術センター 0463-58-0333
普及指導部 奥樹花(伊藤) 東樹 東樹(江口)
野野 野野(江口) 野野(江口)
作物加工課 作物加工課(江口)
農業技術センター 足柄地区事務所 0465-83-5111
普及指導課 花き(勝間田)

水稲

種子および育苗土の準備

種子伝染性の病害やシンガレンセンチュウを防ぐため、種子消毒を必ず行いましょう。消毒後は水に浸してハト胸状態に確保させます。目安は水温の積算温度100度です。15度の場合7日、20度の場合5日。育苗土については、苗木枯病などを防ぐため、床土消毒を必ず行いましょう。また、消毒済みの育苗培土を使用するときは、床土の消毒は必要です。

出芽

積み重ねた場合は育苗箱6〜10枚程度と多くなり、多すぎると育苗に支障をきたす可能性があります。育苗箱は、育苗箱の温度が30度以上になると、温度の上り過ぎや湿度不足などに注意しましょう。

播種

10時当たりの播種(はしゅ)量は乾もみで3g、育苗箱1箱当たりでは約150g(催芽のみで約100g程度)を目安とします。まき過ぎると、苗がむれたり徒長したりするので注意しましょう。

育苗

1ヶ月程度に出芽したら直ちに育苗箱をひき、昼間20〜25度、夜間15〜18度に管理します。初期の30度以上の高温は「苗が低温は苗が伸びなくなるので、寒冷紗(しゃ)やビニールトンネルで保温する」ので注意しましょう。

育苗箱の管理

育苗箱は育苗箱の温度が20度前後、夜間は15度前後を目安に管理します。低温のときは保温をし、高熱のときは換気をしてください。

文芸の窓

春蘭の如く老いける友や美し
評 学友でも有るうか正に卒業シーズン。我が身も老いて友もまた如かずと思へど出てくるその美しき老いに羨望の目を向けてみるのだ
柳川みち子(栄町) 高橋 順子(大栗町)
評 気安くは通らない針の穴。その先に補陀洛かと覗いたらそこには...
蝶生れて命読み込み迅やかな
森高 由子(栄町) 南矢名
書き踏む地球あちこち戦火あり
菜の花の平らな風に出会ひ
高島美和子(名古屋)
貝殻の錦被せられ吊るし
吉田 清美(栄町) 清美(栄町)
菜の花や第一トンネル土
芦川 松江(八沢) 松江(八沢)
名にし負う寒を凝む松が
石原 松枝(栄町) 松枝(栄町)
有りや無し風の濃くして諸葛菜
酒井 紗恵(栄町) 紗恵(栄町)
添い添って杖懸しも春と
柴崎 和子(栄町) 和子(栄町)
枝垂れ梅はさ間ほるかに掛川城
柴崎 和子(栄町) 和子(栄町)
短歌(久保寺 富男 選)
くすかきも下刈もせで荒れ果てし
里山の春に往時をしを
久保田 浩(寺山)
評 タバコ耕作が廃れて落ち葉掻きがなくな
り里山が荒廃した。時代の推移とはい
え、さびしい限りである。時代の推移とい
農協にて振替納税の手続きして
確定申告しレリオド打ちたり
八木 実(鶴巻北)
お父さんの貝合わせいかと君嫁と
挨拶交わす朝のこみ出し
今井 かね(羽根)
訃報うけ親の時代の踏襲に
戸惑いにつつ芳名簿みる
細田 富士(千村)
早咲きの桜にさきわつ松田山
みかん振舞の町おこしなり
伊東 久(沢)
小春日に陽の葉浴び枝先の
小さきつぼみもほこりりと咲く
長岡 廣文(養毛)
子供に招かれた来る旅の宿
枕の下に潮騒は鳴る
選者

今月の理事会

3月21日に理事会を開
催し、次のことを審議し
ました。
▽2016年度決算にか
かる備前・引当金につ
いて
▽2016年度貸借対
照表、損益計算書、注記
表、剰余金処分案及び事
業報告並びにこれの付
属細則の監事及び全国
農業協同組合中央会へ
の提出について
▽役員報酬を総会に附
議する件について
▽2017年度(平
成29年度)指導事業の費
用に充てるための経費
(賦課金)についてを
総会に附議する件につ
いて
▽「全国農業協同組合
連合会が行う農業経営事
業に関する同意につ
いて」を総会に附議する件
について
▽第54回通常総会の開
催について
▽公印、法人印鑑力
ド及び金庫管理規程の変
更について
▽職能資格規程の変更
実施要項の改定につ
いて
▽JAバンク神奈川新
規就農資金の新設につ
いて
▽職制規程の変更(案)
について
▽金融共済窓口営業時
間の変更(案)につ
いて

協同組合講座の受講者募集

内容	専修講座	組合員講座	組合員基礎講座
	2年1期。グループワークや視察を通して協同組合や農産、生活などについて深く学ぶ	農政コース「税金・農政・法律」と生活コース「健康・文化・環境」に分かれて学習。それぞれのテーマで座学と視察	協同組合の基礎的な学習。JAはだの取り組みを中心に、座学の他、横浜港や尊徳記念館などを視察
対象者	組合員講座修了者	組合員とその家族	准組合員とその家族
募集定員	35人	60人	50人
期間	2017年5月～19年1月	2017年5月～18年1月	
締め切り	4月14日(金)		

リーダー育成

組織づくりに

JAはだの、新時代を切り開く運動のリーダー育成と、共に活動に参加し合える組織づくりに目的に、協同組合講座を開きます。2017年度

の受講者を募集していますので、ぜひご参加ください。

お申し込み、お問い合わせは各支所・支店または組織教育課まで、081-7714

リーダー育成
イン스타그램で人気の
フラワースタイルリスト
による花図鑑。身近で手
に入りやすい40種の花の
特性や、扱い方のポイン
トなどを解説。
定価1944円(税込)
新品
これで失敗しない
家庭菜園Q&A
藤田智 監

春雨の中華風茶わん蒸し

農家の飯 南支部 東町2生活班 大庭洋子

■材料(4人分)■
春雨40g、ホタテ貝柱の缶詰小2缶、生シイタケ2枚(40g)、卵2個、ごま油少々、細ネギ3本、A(湯1と1/2カップ、鶏がらスープのもと小さじ1、塩小さじ2/3、しょうゆ少々)

①春雨を15分ほどぬるま湯に浸けて戻しておく。ホタテ貝柱の缶詰は、身を取り出し、ほぐしておく。シイタケは軸を取り、薄切りにしておく。Aはよく混ぜて冷ましておく。
②卵を溶きほぐし、Aを入れて混ぜる。
③浅めの耐熱容器に春雨と貝柱、シイタケを入れ、②を注ぎ入れる。
④フライパンに③の容器を入れる。容器の周りに半分より少し上の高さまで熱湯を入れたらふたをして、強火で1分、その後弱火で13～15分蒸す。
⑤出来上がったら細ネギを散らし、お好みでごま油を掛けたら完成。

<ひとことアドバイス>
Aのつゆはお好みで調整してください。卵はこすと舌触りが滑らかになり、春雨は少し固めにすると食感が楽しめます。蒸し時間は、一人用でも同じなので家庭によってお好きなものをお使いください。

家の光 今月の新刊

農を棄てたこの
国に明日はない
野坂昭如 著

平和への願いとともに
訴え続けた食料と命

JAグリーンは
頑張る農家応援

JAグリーンはだのは4月1日(土)～10日(月)、農薬や肥料などの割引キャンペーンをします。人気の肥料「エコ80」などが対象になります。併せて、チップソーもお手頃価格で販売しますので、お得なこの機会にぜひご購入ください。お問い合わせは各支所、お得意先、お問い合せは同店まで。081-7719

働くあなたの応援団!

JAバンク 2017 スプリングキャンペーン

キャンペーン実施期間
2017年2月1日(水)～5月31日(水)

給与振込口座を新たに
ご指定いただくと応募者全員に

松下奈緒
QUOカード
5,000円分プレゼント!

ニコス
ギフトカード
1,000円分プレゼント!

※JAカード[一休型]とは、JAのキャッシュカードとクレジットカードが一体となった便利なカードです。

JA正職員を募集

- 応募資格 大学・短大を2018年3月卒業予定者で市内および隣接市町に在住の方
- 募集人員 若干名
- 職種 JA業務全般
- 応募受付期間 3月1日(水)～4月28日(金)
- 応募方法 下記ホームページの採用情報欄をご覧ください
☎257-0015 秦野市平沢477番地 秦野市農業協同組合 企画管理部 総務課
☎0463-81-7711 (平日午前8時30分～午後5時)
- お問い合わせ先

■ホームページアドレス <http://ja-hadano.or.jp/>

より良いJA運営の実現を目指し、 積極的なご意見を

～春の座談会にご出席ください～

4月7日(金)から19日(水) 市内83会場で開催

組合員の皆さまの意見や要望をJAの運営に反映し、組合員参加による協同組合運動を進めようと、春の座談会を4月7日(金)から19日(水)まで市内83会場で開きます。

2016年度の事業報告や2017年度の事業計画、自己改革への取り組みなどについて報告します。

また、日頃JAについて疑問に思っていることや、ご意見・ご要望をぜひ、お聞かせください。

組合員の皆さまのご出席をお願いいたします。



昨年の春の座談会(大倉)



発行所
秦野市
農業協同組合
(神奈川県)
〒257-0015
秦野市平沢477
TEL 0463-81-7711(代)
編集兼発行者 宮永 均
印刷所 (株)タウンニュース社



組合員訪問日を4月から2日間に変更します!

JAはだのは毎月、職員が組合員宅を訪問する「組合員訪問日」を行っています。JAからの情報提供や、組合員の声を直接お伺いするため、毎月26日に実施していました。

2017年4月からは、訪問戸数の増加に伴い毎月26日・27日の2日間に分けて実施することになりました。従来の26日から、27日に変更になる地区の皆さまには、2月、3月の組合員訪問日に変更をお知らせしています。

また、26日・27日の貯金などの集金業務も、地域によって集金日を変更させていただきますので、何とぞご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

お問い合わせなどは各支所・支店まで。



協同組合運動の躍進に向けて



代表理事組合長

山口政雄

2016年度事業の報告に当たりまして、ごあいさつ申し上げます。
2016年度の日本経済は、経済対策による雇用・所得環境の改善などを背景に緩やかながら回復基調にあるとされているものの、個人消費が伸び悩むなど生活実感としては依然として厳しい状況の1年でありました。

農業を取り巻く環境では、「都市農業振興基本計画」が閣議決定され、都市農業が果たす多様な機能が見直されるとともに、「持続可能な農業」のために必要な生産資材価格の引き下げや、農産物の流通・加工構造の改革など13項目からなる「農業競争力強化プログラム」が取りまとめられるなど農業政策は大きな転換期を迎えました。一方、米国の情勢変化の下、TPP(環太平洋連携協定)の発効は不透明となりましたが、日欧EPA(経済連携協定)交渉の再開など我が国の農業に多大な影響を及ぼしかねない貿易交渉が進められています。

JAはだのでは、このような厳しい情勢の中、第53回通常総会で特別決議された「JAはだのみんなで地産地消運動」をはじめ、農業者の所得増大や農業生産の拡大、地域の活性化に向けた自己改革に取り組むとともに、協同組合運動の躍進に向けて、第四次中期経営計画(2016年度～2018年度)初年度の実践に取り組まれました。

組織運営では、女性や農業後継者等の正組合員加入を促進し、組織基盤の強化に努めるとともに、支所運営委員会を設置し、組合員組織や地域の活性化と充実を目的とした協同活動を展開しました。

営農指導事業では、「第一次地域農業振興計画」の実践を「JAはだの営農経済改革」によりさらに推し進め、観光農業のさらなる充実拡大と、地域の特性を生かした品目の生産振興と産地づくり、多様な担い手の育成・支援など、「はだの都市農業支援センター」と連携して農業者の営農意欲の喚起と支援機能の発揮に努めました。

販売事業では地産地消の取り組みの拠点である「はだのじばさんず」へ大型予冷庫を設置し、買い取り販売のための整備を進めるとともに、新鮮で安全安心な地場産農畜産物および農産加工品の品揃えの充実と供給に努めました。また、経済事業では仕入機能の見直しと生産コスト削減に取り組むとともに、組合員の利用拡大に取り組みました。さらに、金融経済事業では地域に根ざした金融機関として組合員・利用者から信頼される店舗づくりに努めました。

経営管理では、農協法改正に伴う役員体制の見直しを行い、次期改選に向けた整備を進めました。また、組合員利用者の信頼性維持向上を目的に、不祥事未然防止に向けてコンプライアンス態勢の強化と、事務堅確性の向上に取り組まれました。

2016年度は、各事業とも厳しい環境の中、組合員の皆さま、そして地域の利用者のご理解とご協力により、概ね計画に沿った成果を残すことができました。

春の座談会では2016年度事業概況を報告するとともに、多くのご意見やご質問をいただき、今後の事業運営に反映させていきたいと考えておりますので、一人でも多くのご出席をお願いいたします。

2016年度協同活動の主な記録

9月



- JAグリーンで、電牧器などの電気柵資材を購入した組合員に対して助成制度を設けました(=写真)。
- 組合員教育事業国外視察研修で13人をタイに派遣し、国際交流を深めました。
- 子育て支援事業「ままメートクラブ」を開き、親子がビニール袋で作った風船などを使う遊びを通して交流しました。



3月



- 女性部が毎年発行している女性部誌「ひろば」を発刊。1年間の活動内容と成果を記録しました(=写真)。
- 子どもたちに食や農業、環境への理解を深めてもらおうと、市内13小学校に食農教育補助教材「農業とわたしたちの暮らし」を贈呈しました。
- じばさんず元気いっぱい生産者大会を開き、「地産地消」の躍進を誓いました。



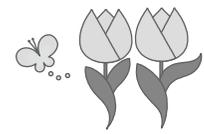
10月



- 組合員教育事業国外視察研修で13人がベトナムを訪ね、現地の農協を視察した他、小学校を訪れ、子どもたちと交流しました(=写真)。
- 営農経済改革の柱である「販売力強化」を進めるため、小田原百貨店大雄山店のオープンに合わせ、JA全農中央ベジフルセンターを通して秦野産野菜の出荷を始めました。



4月



- 地域農業振興を目指す営農経済改革の「営農指導体制の強化」を実践するため、TAC活動を専任的に行う3人を新たに配置しました(=写真)。
- 秦野市園芸協会主催の「春まつり」に約9,700人が来場。市内の生産農家が丹精して作った野菜苗や花苗などの園芸農産物が豊富に並びました。
- 情報の発信力を高めるため、ホームページとメール情報発信サービスを一新。機関紙「JAはだの」にカラー紙面を導入しました。



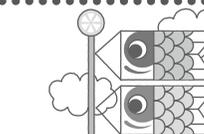
11月



- 「日本一の水が育てた秦野の宝!みんなで食べよう地産地消!」をテーマに、農業まつりを開催。2万8,000人が来場し、JAはだのオリジナルキャラクター「やえのちゃん」と「ぴーなマン」も登場しました(=写真)。
- 「市民の日 協同組合フェスタ」に参加し、JAグループが取り組む「やっぱり国産農畜産物推進運動～みんなのよい食プロジェクト～」をPRしました。



5月



- 青年部が「花いっぱい運動」の一環として本所の花壇にマリーゴールドやダリアなど280ポットの花苗を植え付けました(=写真)。
- 食農教育事業の一環で「ちゃぐりんスクール」がスタート。64人が参加しました。
- 第53回通常総会を秦野市文化会館大ホールで開催。全組合員が1日1品以上の農畜産物を食することを明記した特別決議を採択しました。



12月



- 山梨県北杜市で第12回冬休み子ども村を開催。90人の児童が伝統文化を体験しました(=写真)。
- JAセレモニーホールはだので内覧会とぬいぐるみ・人形供養祭を開催しました。
- じばさんずを拠点として取り組む環境対策の一環で、本所駐車場に電気自動車の急速充電器を設置しました。



6月



- 女性部の「自給率向上!大豆プロジェクト」がスタート。約3^{ha}の津久井在来大豆を種まきました(=写真)。
- 鶴巻地区の農家で構成する鶴巻営農組合が、スクミリンゴガイ(通称ジャンボタニシ)の駆除を実施。作業に役職員がボランティアとして協力しました。



1月



- 組合員教育事業国内視察研修を開催。47人が静岡県掛川市の大日本報徳社を訪問し、協同組合への理解を深めました(=写真)。
- JAはだのオリジナルキャラクター「やえのちゃん」と「ぴーなマン」が、秦野警察署が開いた「110番の日」の啓発キャンペーンに参加し、来場者と交流を深めながら地産地消を促しました。
- 本所駐車場の出入り口正面にキャラクターを使った巨大看板を設置し、JAをPRしました。



7月



- 組合員の健康と福祉に対する意識高揚を図ることを目的に「健康福祉大会」を本所で開催。認知症の予防対策について正しい生活習慣を身に付けることや、食事をバランス良く食べることなどを学びました(=写真)。
- 国際協同組合デー役職員研修会を開催。「協同」の意義を再確認し、さらなる飛躍を誓いました。



2月



- じばさんずの来店者が2002年11月のオープン以来、700万人を達成しました(=写真)。
- 結婚相談事業の一環として「登録者交流会婚活パーティ」を開き男女22人が参加。6組のカップルが誕生しました。
- 地域農業振興大会を開催。生産組合長や業種別部会の部員、直売所出荷者が142人が参加し、地域農業の発展を誓いました。



8月



- JA東西しらかわと「友好JA協定」「災害時相互支援に関する協定」を結びました。9月にはJAにじとも両協定を締結しました(=写真)。
- 夏まつりを開き、2,500人が来場。模擬店の出店やスイカ割りなどのイベントを行い、地域一体となりました。
- 東京海洋大学名誉博士のさかなクンを講師に招き、第24回文化講演会を開催。「ギョギョッとびっくり!おさかな教室」と題し講演しました。



歩むJAはだの

JAはだののすがた

活動の実績

- 2017年2月28日現在
- ()内は前年同期実績
- 数字は単位未満切り捨て

この特集号での数値は速報値となります

4 営農活動の取り組み

◇「地域農業振興計画」による営農指導の充実

- ・販売力強化に向け、販路の拡大
- ・地域の特性に合った振興作物の栽培
- ・営農指導員の確保と体制整備

◇はだの都市農業支援センターとの連携

- ・体験型農園オーナー制度や旅行会社と連携した観光農業の実践
- ・鳥獣被害防止に向けた取り組みの実践

1 みんなの仲間

組合員数

組合員戸数

14,278人(14,084人)

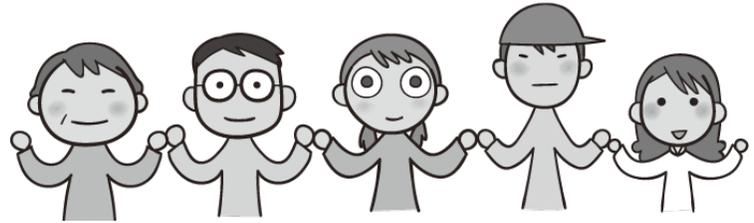
11,723戸(11,578戸)

内訳
正組合員
3,012人(2,972人)

内訳
正組合員戸数
2,348戸(2,349戸)

内訳
准組合員
11,266人(11,112人)

内訳
准組合員戸数
9,375戸(9,229戸)



5 安全・安心な農産物の供給

◇「はだのじばさんず」を中心とした新鮮で安全・安心な農産物の供給

全体の取扱高 24億7千万円(24億6千万円)

<はだのじばさんずの利用状況>

利用者総数 55万6千人(54万4千人)
 1日当たりの利用者数 1,538人(1,498人)
 取扱高 10億1,072万円(9億9千105万円)
 1日当たりの取扱金額 279万円(273万円)

2 資本の状況

資本の合計

152億円(150億1千万円)

内訳

準備金・積立金他

134億1千万円(132億1千万円)

出資金

17億8千万円(18億円)

6 生活指導・福祉活動の取り組み

- ◇健康寿命100歳プロジェクトの展開
- ◇高齢者福祉活動の充実
- ◇生活文化活動や子育て支援への取り組み
- ◇健康福祉基金による活動の充実

<人間ドック受診者> 利用者人数 720人 (706人)

<乳がん・子宮がん検診受診者>

利用者人数 47人 (44人)

<長寿記念品の贈呈> 人数 207人 (168人)

3 組織活動・教育広報の取り組み

- ◇支所運営委員会の設置
- ◇協同組合活動の啓発と組織リーダーの育成
- ◇次世代対策活動と食農教育活動の充実
- ◇ホームページのリニューアルや機関紙「JAはだの」の一部カラー化など、情報発信の充実・強化
- ◇JAはだのオリジナルキャラクター「やえのちゃん」と「ぴーなマン」の作成・活用



組合員・地域とともに 2016年度

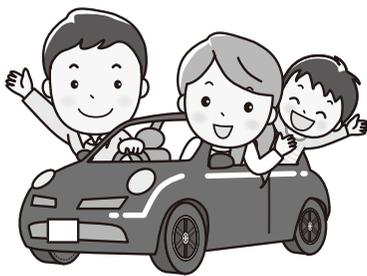
10 農業・生活・事業資金 などのご融資

- ◇農業振興や生活・事業などの資金対応
- ◇休日ローン相談会の開催
- ◇住宅・マイカー・教育ローンとくたくプランの実施

貸出金残高

404億5千万円
(453億4千万円)

※金融機関貸付金 △56億円



7 共同購入で暮らしを豊かに

- ◇予約購買による生産資材の供給
- ◇安全・安心な生活物資のPRと供給

全体の供給高

36億7千万円(34億1千万円)

内訳

生産資材

12億5千万円(12億6千万円)

生活物資

24億2千万円(21億5千万円)

※生活物資には、施設建設の取り扱いを含む
17億9千万円(14億9千万円)

11 万ーに備えての共済

長期共済新契約高

314億1千万円(354億4千万円)

長期共済保有高

4,531億3千万円(4,562億円)

1年間に支払った事故共済金額

事故	1,400件	9億3千万円	(1,443件	8億円)
生命	679件	6億円	(690件	5億7千万円)
建物	139件	7千万円	(144件	7千万円)
自動車	574件	2億4千万円	(603件	1億5千万円)



8 暮らしのための 共同施設の利用

- ◇JAセレモニーホールはだの運営の充実強化
- ◇利用者に満足いただける旅行の提供

全体の取扱高

6億9千万円(7億5千万円)

主な施設の取扱高

旅行センター

1億6千万円(1億6千万円)

JAセレモニーホールはだの

228件 5億1千万円(232件 5億7千万円)

12 活動のみのり

当期剰余金

3億8千万円
(4億6千万円)



13 (株)協同コンサルとはだの

- ◇まかせて安心JAのマイホーム建設
- ◇入居者に喜ばれる共同住宅のあっせん

入居率

97.7%
(96.2%)

9 便利で安心 JAバンク

- ◇特別貯蓄運動・キャンペーンの実施
- ◇年金相談会の開催

貯金残高

2,202億9千万円
(2,162億8千万円)



第54回通常総会を開催

- 日時 5月22日（月） 午後1時30分～
- 場所 秦野市文化会館 大ホール

第54回通常総会を5月22日（月）午後1時30分から秦野市文化会館大ホールで開きます。総会はJAの最高意思決定機関で、JAの運営や今後の取り組みなど、組合員の総意により決定します。一人でも多くの組合員の皆さんの出席をお願いします。

第54回通常総会提出議案は、下記の第1号議案から第6号議案まで上程します。

通常総会提出議案

第1号議案

2016年度（平成28年度）貸借対照表、損益計算書、
剰余金処分案、注記表及び事業報告の承認について

第2号議案

2017年度（平成29年度）事業計画の設定について

第3号議案

役員報酬の決定について

第4号議案

2017年度（平成29年度）指導事業の費用に充てるた
めの経費（賦課金）について

第5号議案

定款及び定款附属書役員選任規程の一部変更について

第6号議案

全国農業協同組合連合会が行う農業経営事業に関する同
意について

その他臨時案件

会場入場券のご持参を

総会に出席される方は、開催案内に記載されている「会場入場券」を必ずご持参ください。

なお、総会出席者に配布する粗品は、ご来場されたご本人のみとさせていただきます。



2016年度（平成28年度）剰余金処分案

1. 当期末処分剰余金	7億8千万円	(3) 事業分量配当金	9千百万円
2. 剰余金処分量	2億5千万円	3. 次期繰越剰余金	5億2千万円
(1) 任意積立金	1億9百万円	※数字は単位切り捨て	
① 組合員教育特別積立金	9百万円	(注) 1. 出資配当は3.0%の割合です。 2. 事業の利用分量に対する配当金の基準は、定期貯金、定期積金、譲渡性貯金の年間平均残高10万円以上に 対して1万円につき10円の割合です。	
② 地域農業振興基金	1億円		
(2) 出資配当金	5億3百万円		

JAはだの自己改革への挑戦

重点実施事項	2016年度の主な取り組み
1. 営農指導事業強化に向けた取り組み(担い手の育成・支援)	<ul style="list-style-type: none"> ・営農経済部を営農部と経済部に分割しました。 ・自己改革をさらに進めるため、常勤役員・営農部・改革推進室で営農推進会議を立ち上げました。 ・TAC担当者を3人配置し、認定農業者・大口出荷者・新規就農者らを中心に情報提供と相談機能の充実に努めました。また、TACシステムの活用を開始し、情報の共有に取り組みました。 ・営農課職員の資質向上を目指し資格取得に取り組みました。(営農指導員認証1人、施肥マイスター認証1人、営農指導員資格認証試験合格3人) ・販売振興作物「ニンジン」の生産を継続しました。17人・76㍓。 ・鳥獣被害対策作物「エゴマ」の作付けを拡大しました。4人と1組合で合計37㍓・集荷117㍓。2017年3月1日よりエゴマ油110㍓ 215本をじばさんずで販売開始。 ・秦野産小麦の有利販売と産地化に向けて「秦野小麦出荷組合」を設立。また、栽培講習会でGAP導入を決定しました。 ・地域農業振興大会で県の奨励品種である米「はるみ」への品種切り替えを推進。「はるみ」が2016年産米食味ランキング特Aを獲得したことで普及が加速しました。 ・農業を融資面で支援するために農業資金のPRや相談体制を強化しました。
2. 販売力強化に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・生産者の販路拡大の希望に応え、新たにカボチャ、タマネギ、ナス、ジャガイモをJA全農中央ベジフルセンターへ出荷しました。 ・峠地区のソラマメを横浜金港市場へ新たに出荷しました。 ・イオン担当者を設置。バイヤーなどと話す機会を増やし、取り扱い額が増加しました。 ・JA全農中央ベジフルセンターと連携して、小田原百貨店へ出荷を始めました。登録農家12軒。 ・じばさんずでふるさと納税を活用した販路拡大に取り組みました。 ・じばさんずの午後の荷や端境期対策として予冷庫を設置しました。 ・じばさんずの農産物の安全・安心がより一層高まるように、秦野市優良農産物等登録認証制度の登録に向けた取り組みを出荷者に呼び掛けました。1月に花き(小菊)認証、ブドウ認証予定・12人申請中。 ・秦野産小豆を使用した練り餡の開発を行い、製品として286袋が出来上がり完売しました。 ・台風で落ちてしまった秦野産梨を使用した「梨サイダー」の開発に取り組みました。 ・特別貯蓄運動の奨励品として地場産の農産物を活用しました。
3. 生産購買強化・再構築に向けた取り組み(生産資材価格メリットの提供)	<ul style="list-style-type: none"> ・物流コスト削減により、取り扱い上位品目の肥料の価格値引きを実施しました。 ・生産組合・部会予約注文で大口値引きを開始しました。 ・JAグリーンの集客増加と生産資材価格低減を目的とし、キャンペーンを定期的実施しました。 ・全農および系統外メーカーとの価格交渉と輸入肥料を試験的に導入し、価格低減に努めました。 ・獣害軽減のための電牧器関連資材の助成制度を実施しました。125件、284万円助成。 ・JAグリーンの開店時間を試験的に月・水・金曜日の週3日、30分早めて午前7時30分にしました。
4. 組織運営改善に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・「JAはだのみんなで地産地消運動」に取り組みました。 ・正組合員加入促進運動を開始しました。 ・支所運営委員会を設置し協同活動を展開しました。 ・認定農業者と常勤役員との話し合いを行いました。 ・ホームページをリニューアル。メール情報配信サービスも一新し、簡単に登録できるQRコードを導入しました。 ・JAや農業を分かりやすくPRするため、オリジナルキャラクター「やえのちゃん」と「ぴーなマン」を作成しました。
5. 経営管理改善に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・農協法改正に伴う役員選出についての見直しを検討しました。 ・施設内設置の飲料自動販売機売上金の一部(1本当たり6円)を赤い羽根募金へ寄付しました。(943,606円)。 ・災害時相互支援を含めた友好JA協定を締結をしました。(福島県JA東西しらかわ・福岡県JAにじ)。 ・本町支所の建て替えを決定しました。 ・会計監査人監査への移行に向けた研究と内部統制整備を進めました。

役員体制の整備について

2016年4月1日施行の改正農業協同組合法において、2019年に開催する通常総会終了の時から、理事の過半を認定農業者または組合の事業、法人の経営に実践的能力を有する者で構成することが新たに規定されました。

JAはだのではこの法改正を受け、次期役員改選から、役員の数と役員を選出方法を見直して理事の新要件と役員の女性割合の目標を確実に充足させます。また、営農経済事業の体制を強化するため、営農経済担当の常勤理事を新設します。

(1) 常勤役員理事執行体制

常勤理事体制として現在の組合長、専務、信用・共済事業担当常務の3人体制から、営農経済事業の体制強化を目的に、新たに営農経済事業担当常務を設置し、4人体制とします。

(2) 役員定数

役員数は現在43人(理事36人・監事7人)ですが、30人(理事25人・監事5人)に減員します。

理事25人・・・常勤理事4人・非常勤理事21人

監事5人・・・常勤監事1人・非常勤監事4人(うち員外監事1人)

(3) 役員選出方法

理事・・・区域推薦 18人(区域選考16人、選考委員会選考2人)

区域以外推薦 7人(選考委員会選考:実務経験者2人、女性5人)

※農協法の理事構成要件を満たすため、区域配分された理事数の過半は認定農業者または実践的能力者とする必要があります。

監事・・・区域推薦 3人(区域選考3人)

区域以外推薦 2人(選考委員会選考:実務経験者1人、員外者1人)